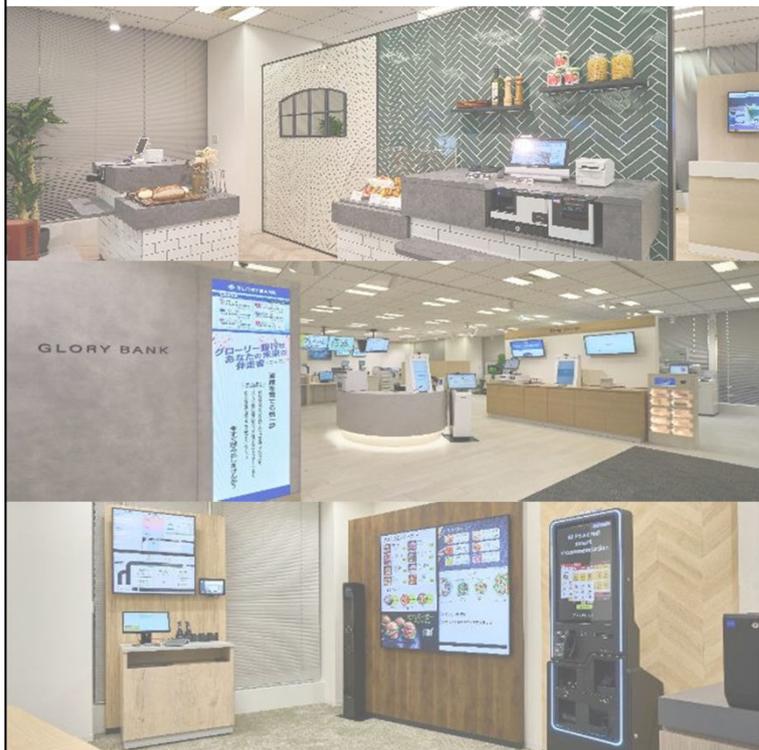


東京UDX 新ショールーム



グローリー株式会社 2025年3月期 通期 決算説明資料

【説明者】

- ・代表取締役社長 原田 明浩
- ・経営戦略本部長 田中 千也

本日の内容

1 | 企業価値向上への取り組み

代表取締役社長 原田 明浩

2025年3月期 通期

2 | 決算概要

執行役員 経営戦略本部長 田中 千也

2026年3月期 通期

3 | 連結業績予想

執行役員 経営戦略本部長 田中 千也

1 | 企業価値向上への取り組み

代表取締役社長 原田 明浩

本資料は、当社の設定した試算に基づき、投資家の皆様への参考情報として提供するものです。
記載内容は正式な業績予想または財務情報ではなく、監査法人による監査・レビューの対象外であり、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、今後の市場環境、事業動向などにより大きく変動する可能性がある点をご理解ください。

「企業価値向上への取り組み」

説明者：代表取締役社長 原田 明浩

決算ダイジェスト

GLORY

2025年3月期 連結業績 <結果>

【売上高】 **3,690** 億円
前期比 -34 億円 (-0.9%)

【営業利益】 **351** 億円 (のれん償却前利益 438 億円)
前期比 -160 億円 (-31.3%)

- 海外市場での販売が増加。海外売上高は過去最高（前期比+248億円）
- 国内市場は、前期発生した改造作業などの新紙幣発行対応（特別需要）の反動により減収減益も売上高は新紙幣発行対応前である2023年3月期を上回った

2026年3月期 連結業績 <予想>

日本基準

【売上高】 **3,400** 億円
前期比 -290 億円 (-7.9%)

【営業利益】 **215** 億円 (のれん償却前利益 300 億円)
前期比 -136 億円 (-38.7%)

IFRS会計基準

【売上収益】 **3,400** 億円
【営業利益】 **285** 億円

2026年3月期期末決算より国際財務報告基準（IFRS会計基準）を適用予定

- 国内外においてセルフ化ニーズの継続を見込む
- 米国の通商政策による影響は、精査中のため織り込んでいない

ダイジェスト

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

4

「2025年3月期 第3四半期累計期間 決算ダイジェスト」

(2025年3月期 実績)

- ・売上高 **3,690** 億円 (前期比-34 億円 -0.9%)
- ・営業利益 **351** 億円 (前期比-160 億円 -31.3%)

海外市場では2024年1月に買収したフルイド社の連結会計への取り込みやリテール市場を中心に主要製品の販売や保守売上高が増加。売上高は過去最高で、2,100億円を超え前期比でもプラス248億円

国内市場では、新紙幣対応の特別需要が収束し減収減益

(2026年3月期 通期業績予想)

日本会計基準

- ・売上高 **3,400** 億円 (前期比 -290 億円 -7.9%)
- ・営業利益 **215** 億円 (前期比 -136 億円 -38.7%)

IFRS会計基準

- ・売上高 **3,400** 億円
- ・営業利益 **285** 億円

海外市場は注力3市場の更なる成長を見込んでおり、国内では新紙幣対応に伴う需要が増加した前期から販売は減少するものの、小売・飲食店舗での業務効率化を目的としたセルフ型製品・サービスへの堅調な需要の継続を見込む

企業価値向上への取り組み

1. 「2026中期経営計画」 初年度進捗
2. 海外事業の進捗
3. 利益配分に関する基本方針の変更
4. キャッシュアロケーションの見直し
5. 中期目標達成のためのアクション

2026中期経営計画

- | | | |
|---|-----------------------|---------|
| } | ・営業利益 | ・売上高 |
| | ・当期利益 | ・ROE |
| | ・ROIC (事業ポートフォリオの最適化) | |
| | ・ROA | ・PBRの推移 |

6. 政策保有株式の縮減状況
7. 株式を活用した人的資本経営の推進
8. 株主・投資家とのエンゲージメント強化
9. IFRS移行に関するお知らせ

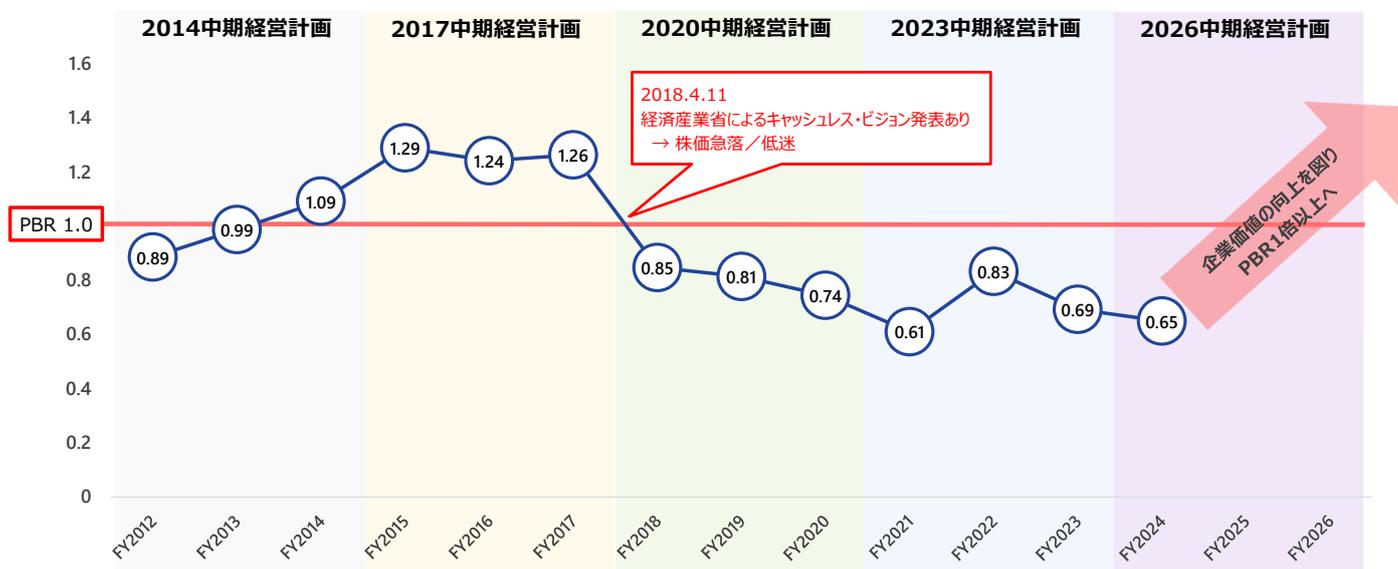
➔ 課題

米国の関税に関する影響

「企業価値向上への取り組み」

企業価値向上への取り組みに関する9項目と、米国の関税に関する影響について説明

当社PBRの推移



目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

6

「PBRの推移」

2017年ぐらいまでは海外事業に対する期待も高くPBR 1を超える

経産省のキャッシュレス・ビジョン発表後、株価は急落

その後も株価は低迷し、2024年期末のPBRは0.65倍程度

企業価値向上を図り、PBR1倍以上を目指す取り組みについて、次ページから説明

1. 「2026中期経営計画」 初年度進捗

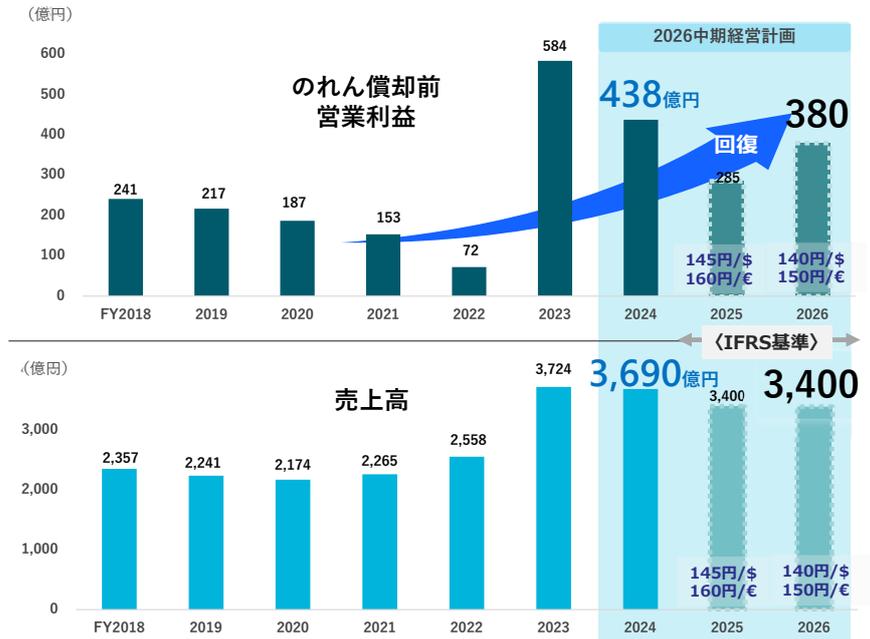
当社試算に基づく参考情報

GLORY

・中計初年度は、営業利益、売上高ともに計画を大きく上回った

2024年度 計画と実績

	計画		実績
	のれん償却前	のれん償却前	
効率性	ROE 自己資本利益率	8.3%以上	10.7%
	ROIC 投下資本利益率	6.6%以上	9.9%
	ROA 総資産利益率	4.2%以上	5.4%
P/L	営業利益	306億円	438億円
	売上高	3,300億円	3,690億円
	内 新領域事業 売上高	448億円	510億円



目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

7

「2026中期経営計画」 初年度進捗

(画面左側) 2024年度の効率性、P/L指標に関する計画と実績

全て計画値を上回る

(画面右側) のれん償却前の営業利益、売上高のグラフ

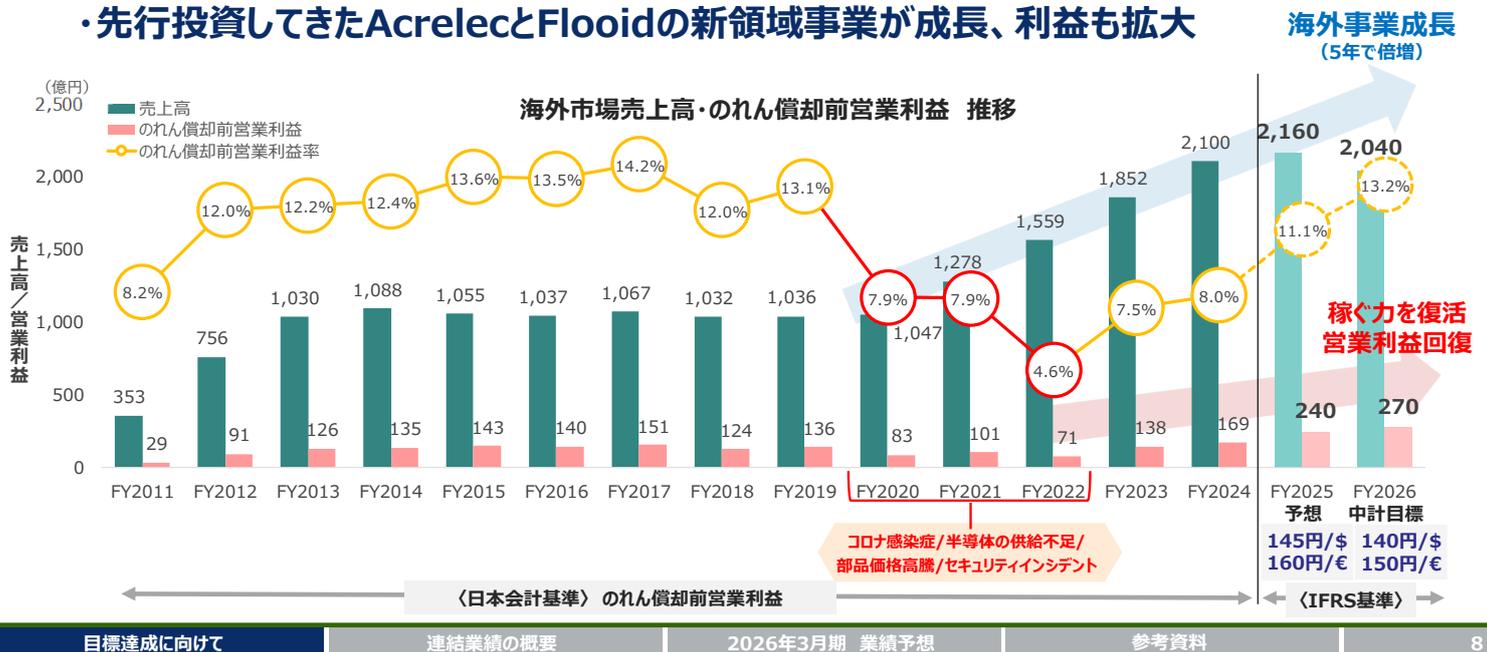
新紙幣対応の需要もあり直近2年間は営業利益、売上高は大きく伸びる

2. 海外事業の進捗

当社試算に基づく参考情報

GLORY

- ・中期経営計画の成長エンジンである海外事業（特にリテール）が伸長
- ・海外営業利益率も順調に回復
- ・先行投資してきたAcrelecとFlooidの新領域事業が成長、利益も拡大



「海外事業の進捗」

海外事業の成長が大きく寄与

(売上高)

2013年から2020年までは1,000億円前後の状況が続く
直近5年間ではリテール市場の成長やM&Aにより急速に成長
2024年度は初めて2,000億円を超える

(営業利益)

2019年までの営業利益率は13%～14%で推移

2020年から2023年まではコロナ感染症による活動の停滞をはじめ、半導体の供給不足、部品価格の高騰、子会社で発生したセキュリティインシデント等の影響により利益率が低下
外部要因への対策とともに事業の効率化を進め2024年度下期より回復傾向

2025年度は、さらに営業利益の回復が進み売上高は2,160億円、営業利益は240億円、営業利益率は11.1%まで回復する見通しが立つ

2026中期経営計画の成長エンジンである海外市場が伸び、利益もついてきたという状況
先行投資をしてきたAcrelec やFlooidの新領域事業についても成長して利益にも貢献

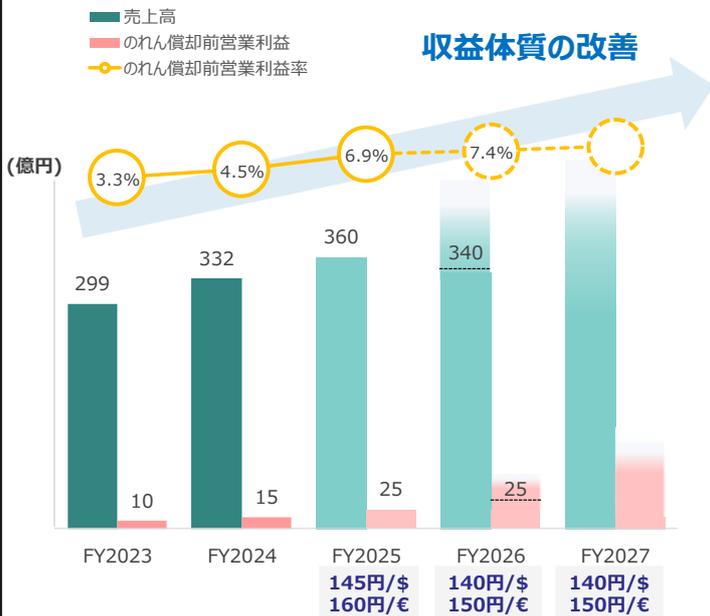
2. 海外事業の進捗 -新領域 (非現金事業) の買収企業も成長-

当社試算に基づく参考情報

GLORY

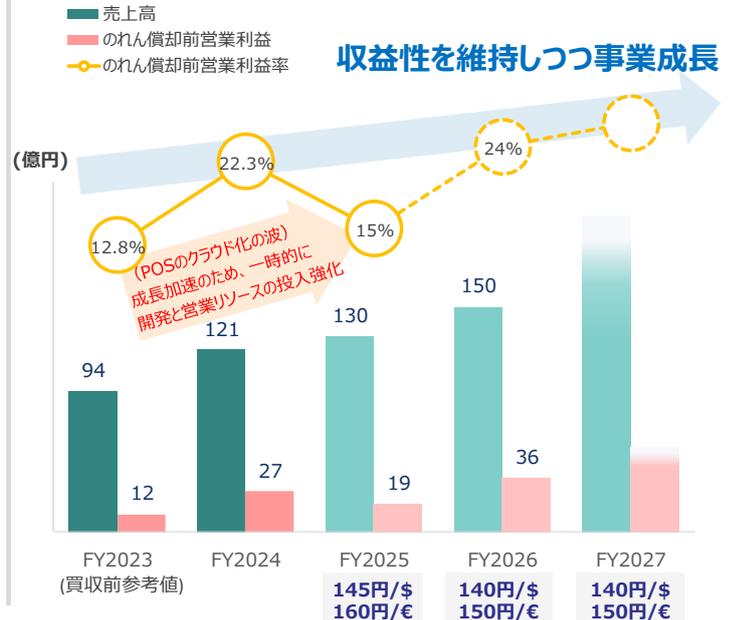
acreclec
a GLORY company

海外：飲食市場



floodid
a GLORY company

海外：リテール市場



目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

9

「海外事業の進捗」 -新領域 (非現金事業) の買収企業も成長-

(左側画面) Acrelec社の業績

(右側画面) Floodid社の業績

それぞれ売上も順調に伸びており、利益もついてきた

キャッシュレス時代にも対応できる通貨処理以外の事業を伸ばしている

3. 利益配分に関する基本方針の変更 [株主還元の強化]

新たに目標 3. を追加

目 標	<p>1. 2024年3月期の配当金額（年間106円/1株）を基準とした累進配当</p> <p>2. 株主資本配当率（DOE）3%以上</p> <p style="text-align: center;">+</p> <p>3. 2026中期経営計画の期間中は総還元性向100%以上 （2026年3月期 及び 2027年3月期）</p>
-----	--

方針変更の理由

中長期の成長エンジンである海外市場において

- ・ リテール向けを中心に事業が拡大し、収益性も改善傾向
- ・ 買収企業の成長に確信
 - 飲食店向けソリューションの創出
 - 流通店舗向けプラットフォームの販売が軌道に乗った



目標達成に向けて	連結業績の概要	2026年3月期 業績予想	参考資料	10
----------	---------	---------------	------	----

「利益配分に関する基本方針の変更」 株主還元の強化

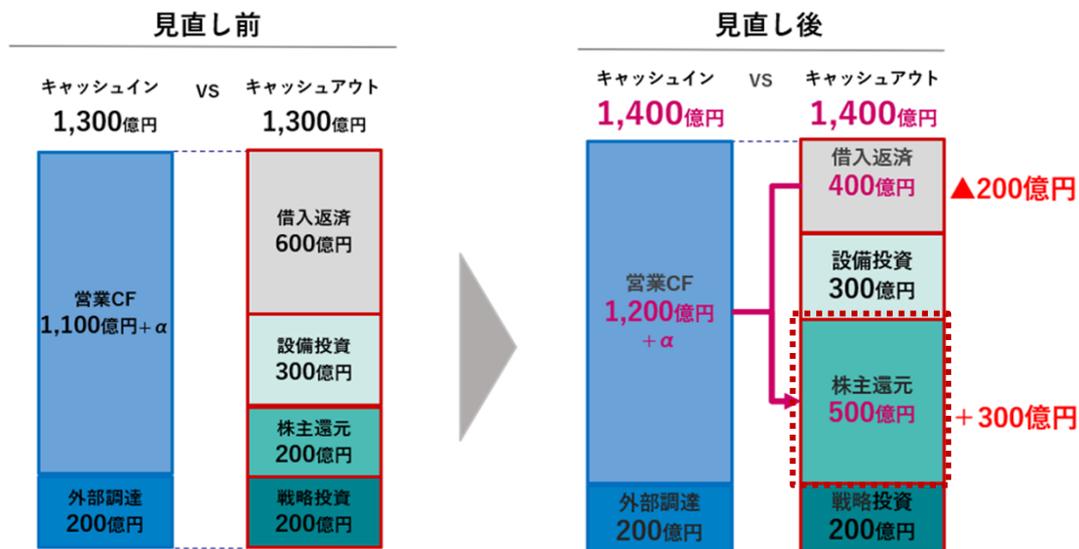
中長期の成長エンジンである海外、及び新領域事業が伸びていくことを背景に、利益配分に関する基本方針を変更。株主還元を強化

新たな目標として、2026中期経営計画の期間中は、総還元性向100%以上を追加
2026年3月期、2027年3月期の2期にわたり総還元性向100%以上を実施

4. キャッシュアロケーションの見直し [株主還元強化]

営業キャッシュ・フローの増加見通しに伴い

➡ 中期3年間の株主還元枠を **200億円から500億円へ拡大**



目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

11

「キャッシュアロケーションの見直し」

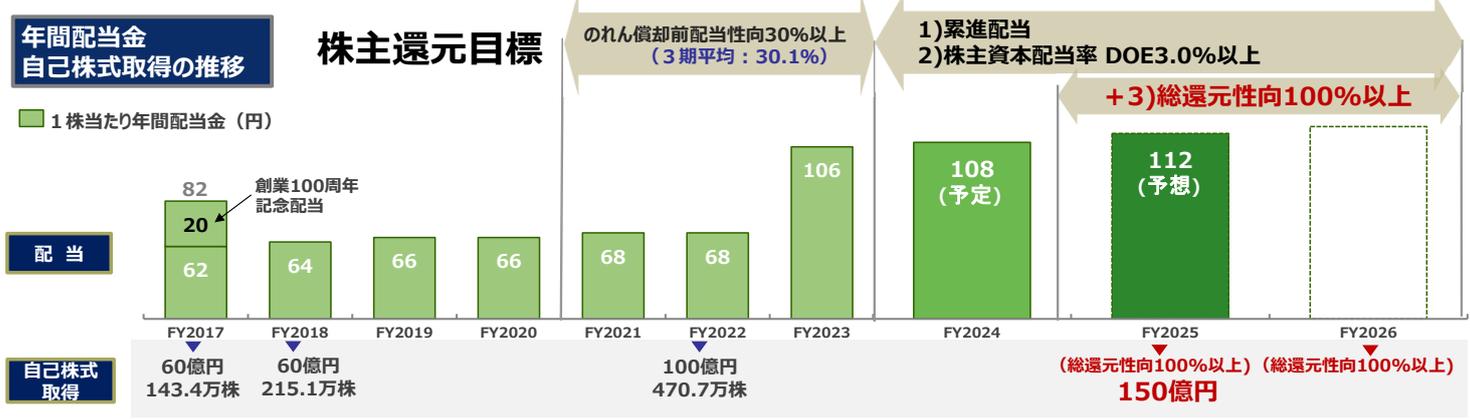
(画面左側) 見直し前

(画面右側) 見直し後

キャッシュインの増加に伴い2026中期経営計画期間中の株主還元枠を従来の200億円から300億円増額し500億円に引き上げ

4. キャッシュアロケーションの見直し [株主還元の強化]

配当 1株当たり配当金				+		自己株式取得 総還元性向100%以上の実施	
2026年3月期 予想	中間期末	期末	年間	取得目的	資本効率の向上		
	56円	56円	112円	株式取得価額、株数	150億円 (上限) , 600万株 (上限) <small>(自己株を除く発行済株式数 57,796,560株の10.4%に相当)</small>		
2025年3月期 予定	中間期末	期末	年間	取得期間	2025年5月14日～2026年5月13日		
	54円	54円	108円	消却の考え方	今回取得分は全て消却する方針		



「キャッシュアロケーションの見直し」

キャッシュアロケーションの見直しに基づき、2026年3月期の配当予想112円に加え、

自己株式の取得を実施

内訳は

株式取得価格は上限150億円、もしくは取得株数の上限600万株

(自己株を除く発行済株式数の約10.4%の規模)

取得期間は2025年5月14日から2026年5月13日

取得した株については全株消却予定

5. 中期目標達成のためのアクション

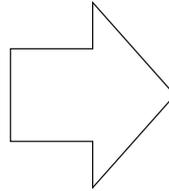
[2026中計財務目標]

GLORY

2026年度 財務目標

	のれん償却前	のれん償却後
効率性	ROE 10%以上	6%以上
	ROIC 8%以上	5%以上
	ROA 5%以上	3%以上
	営業利益 380億円以上	300億円以上
P/L	売上高 3,400億円以上	
	内 新領域事業 売上高 600億円以上	

想定為替レート 140円/ドル、150円/ユーロ



次ページ以降にて
進捗状況、および
達成ストーリーをご説明

目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

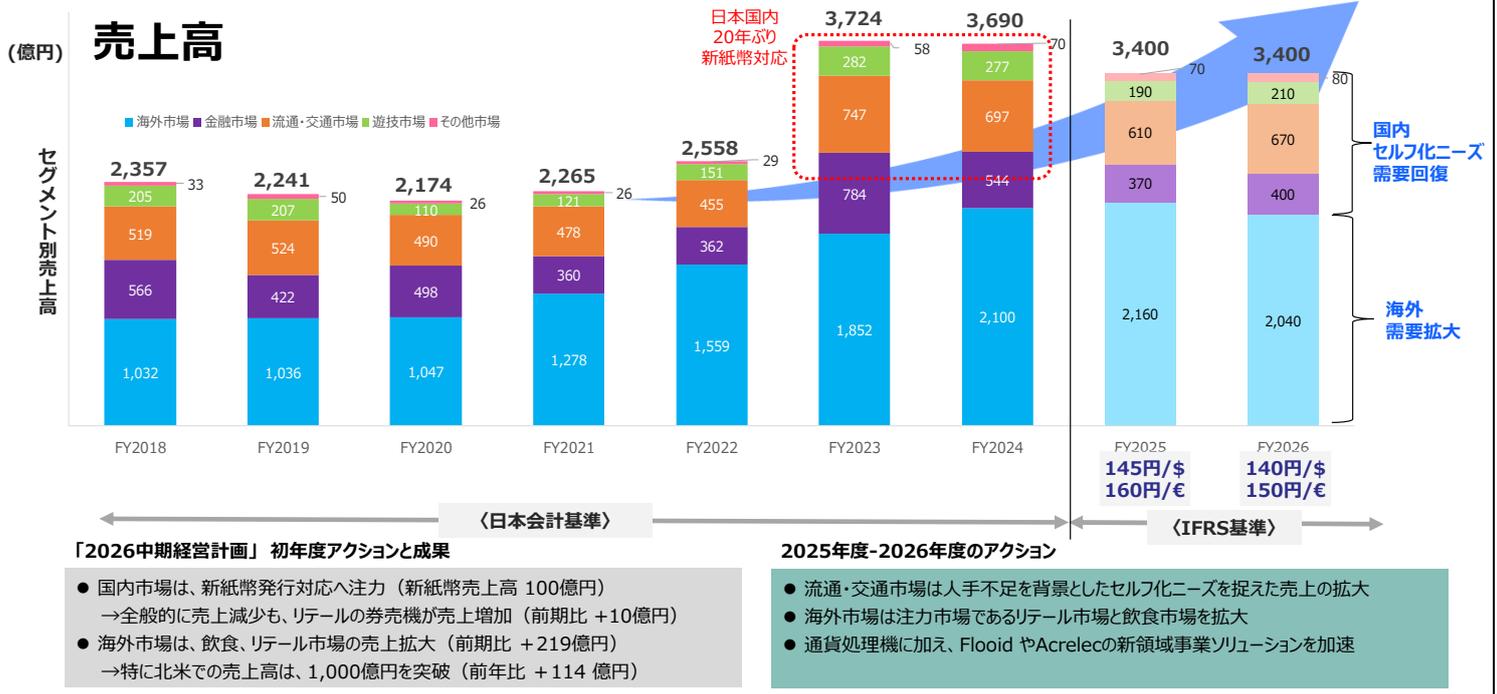
13

「中期目標達成のためのアクション」

2026中期経営計画の財務目標に対する進捗と達成ストーリーについて説明

5. 売上高 達成のためのアクション

当社試算に基づく参考情報



「売上高 達成のためのアクション」

2018年度から2026年度までのセグメント別の売上推移グラフ

(2023年と2024年の赤い点線で囲んだ部分)

日本国内で20年ぶりに新紙幣が発行されたことによる特別需要

(2025年度)

売上高3,400億円、2026年度も為替レートは中期経営計画策定時から見直していないが同じく3,400億円を計画

新紙幣発行の前では、売上高の実力値が2,200~2,300億円であったが、
 今後は3,400~3,500億円が実力値

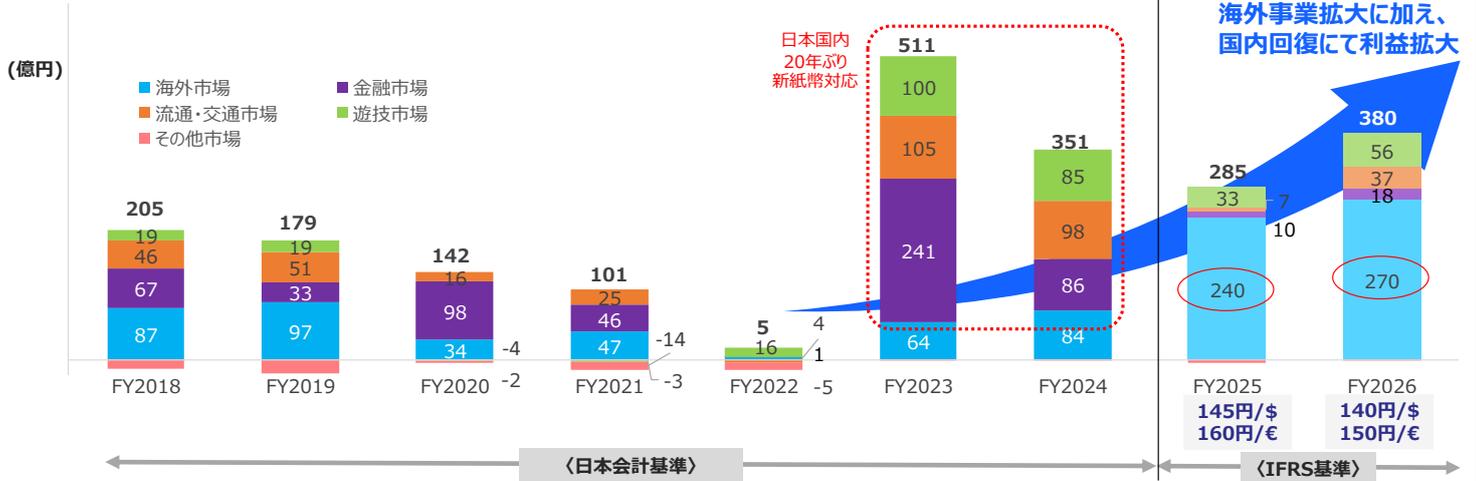
特に成長を牽引する海外市場の今後の売上高比率は60%を超える見通し

5. 営業利益 達成のためのアクション

当社試算に基づく参考情報

GLORY

営業利益



「2026中期経営計画」初年度アクションと成果

- 国内市場は、売上高が減少するなか、高い営業利益率を維持
→特に遊技市場は営業利益率30%超、金融、流通セグメントも15%前後
- 海外市場は、Acrelec、Floodの利益が改善（前期比+5億円、+27億円）
→特に、Floodの営業利益率は20%超

2025年度-2026年度のアクション

- 買収企業とのシナジーによる収益拡大の早期実現
→Revolution、Acrelec、Flood、Showcase Gigなど
- 成長エンジンと位置付ける米州事業の高収益化を実現
→買収企業との事業統合や保守事業の効率化加速による収益性改善

目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

15

「営業利益 達成のためのアクション」

営業利益も同様に2018年度からセグメント別に表示

（2020年度から2022年度）

コロナ感染症、半導体不足、部品高騰、セキュリティインシデント等の影響により、営業利益が減少

（2023年度、2024年度）

新紙幣対応の特需で大きく利益は伸びる

（2025年度以降）

新紙幣関連の需要が剥落しても、海外市場の営業利益増加に伴い全体の営業利益も伸びる計画

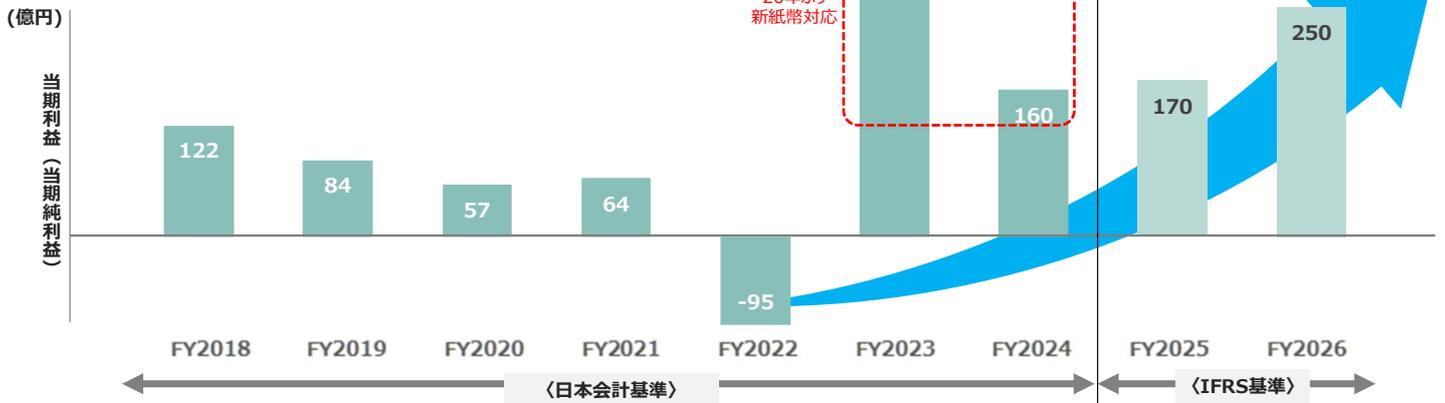
2024年度 海外市場の営業利益は、上半期は赤字で苦しんだものの下半期に挽回し、最終的には84億円で着地。上期にあったコスト増要因が改善したことに加え、会計基準がIFRSに移行約85億円ののれん償却がなくなるため、2025年度 240億円、2026年度270億円と海外市場の営業利益が拡大

5. 当期利益 達成のためのアクション

当社試算に基づく参考情報

GLORY

当期利益 (当期純利益)



「2026中期経営計画」 初年度アクションと成果

- 国内市場は、売上高が減少するなか、高い営業利益率を維持
→特に遊技市場は営業利益率30%超、金融、流通セグメントも15%前後
- 海外市場は、Acrelec、Flooidの利益が改善（前期比+5億円、+27億円）
→特に、Flooidの営業利益率は20%超

2025年度-2026年度のアクション

- 買収企業とのシナジーによる収益拡大の早期実現
- 成長エンジンと位置付ける米州事業の高収益化を実現
→買収会社との事業統合や保守事業の効率化加速による収益性改善
- グローバルでの為替リスク管理強化による為替影響の極小化

目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

16

「当期利益 達成のためのアクション」

当期利益も営業利益と同様のアクション

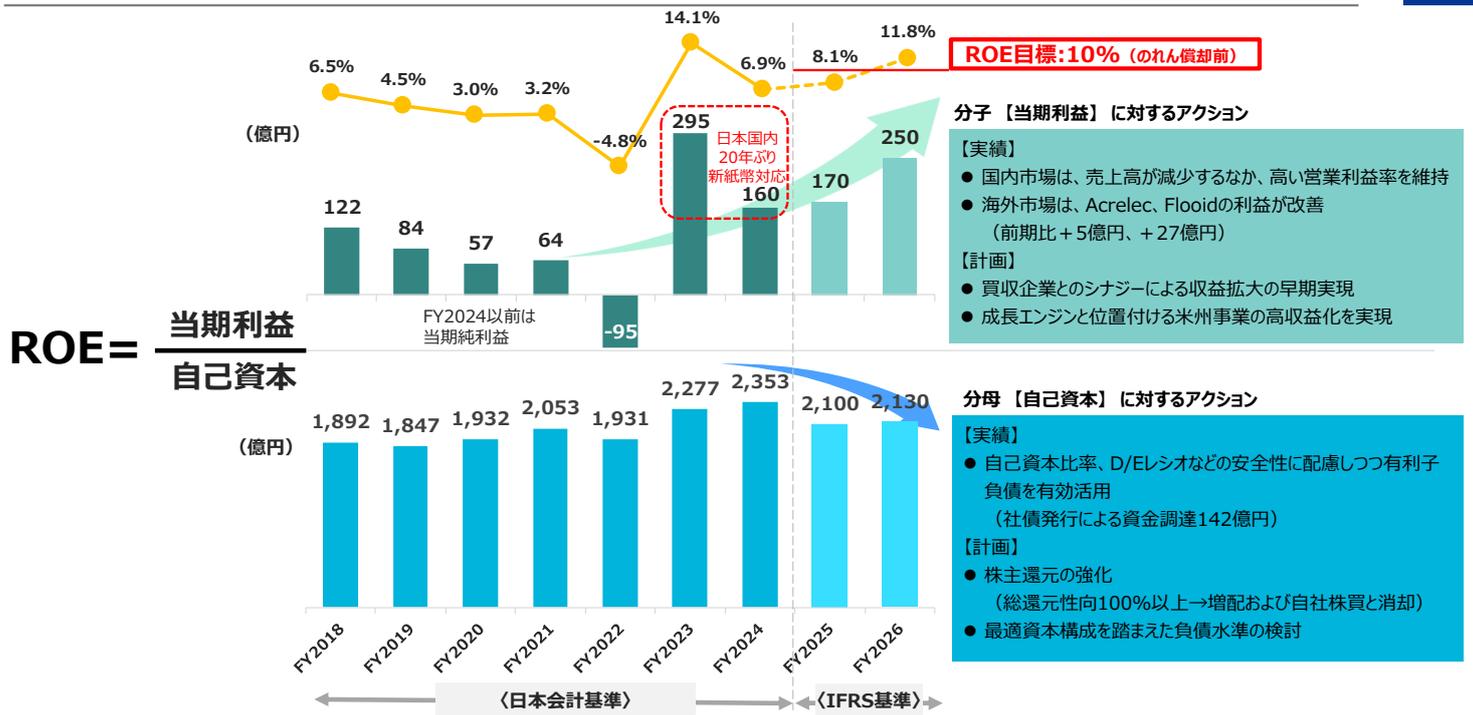
新紙幣特需が剥落後も2025年度に170億円、2026年度に250億円を計画

例えば2025年度は、配当112円とした配当総額は60億円程度、加えて自社株買い150億円予定しているため、当期利益170億円に対する総還元性向は100%以上

5. ROE 達成のためのアクション

当社試算に基づく参考情報

GLORY



目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

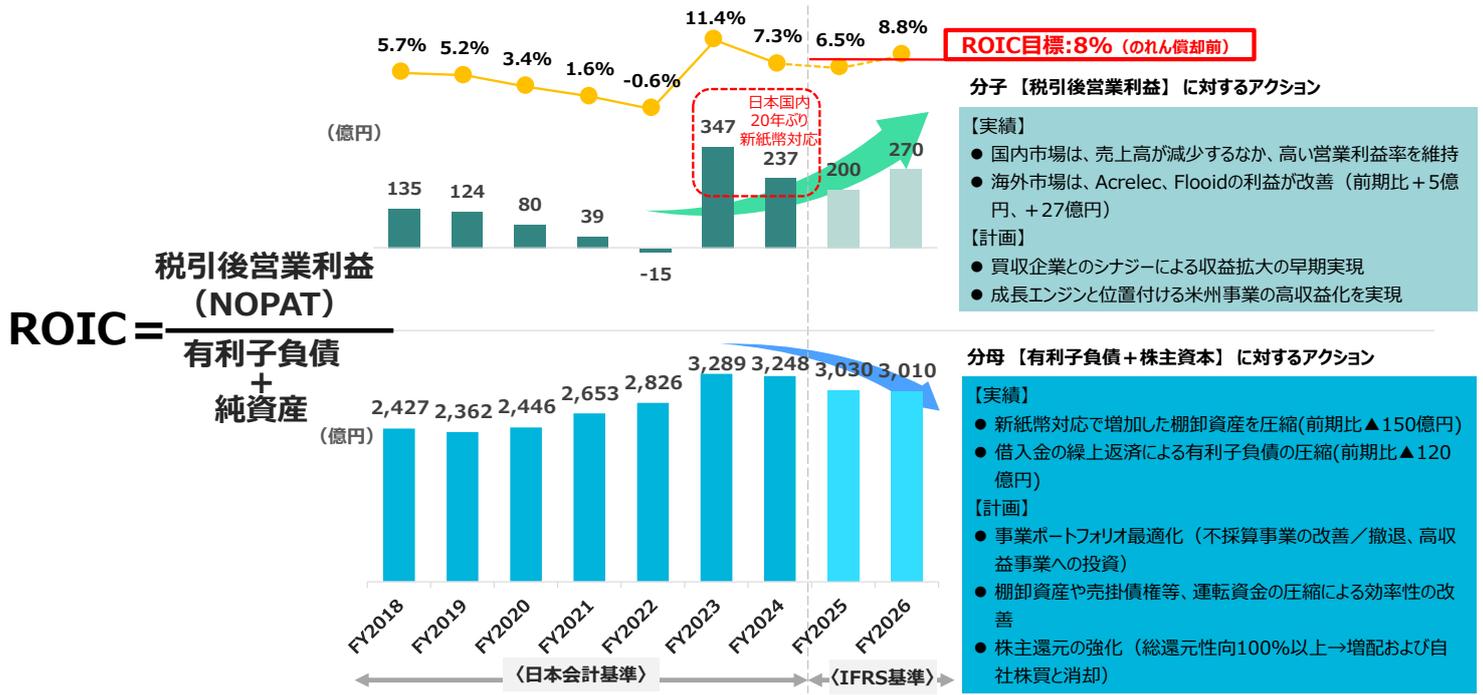
17

「ROE 達成のためのアクション」

ROEの計算式を分解

下側に自己資本（分母）、上側に当期利益（分子）の推移グラフと実績及び計画を表示
それぞれのアクションを確実に実行しROE目標値の達成を目指す

5. ROIC 達成のためのアクション



目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

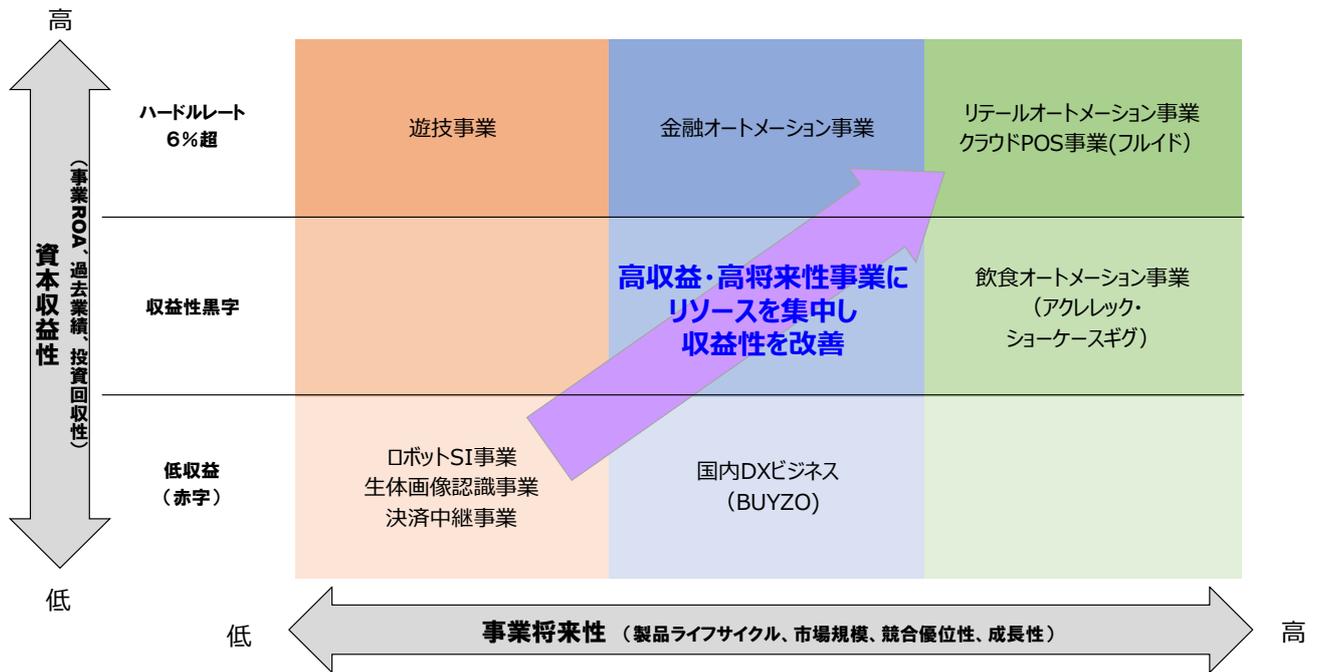
参考資料

18

「ROIC 達成のためのアクション」

ROICについても分子・分母に分け、それぞれ実績と今後実行していくことを明示
 中期目標のROIC達成を目指す

5. ROIC 達成のためのアクション [事業ポートフォリオの最適化]



目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

19

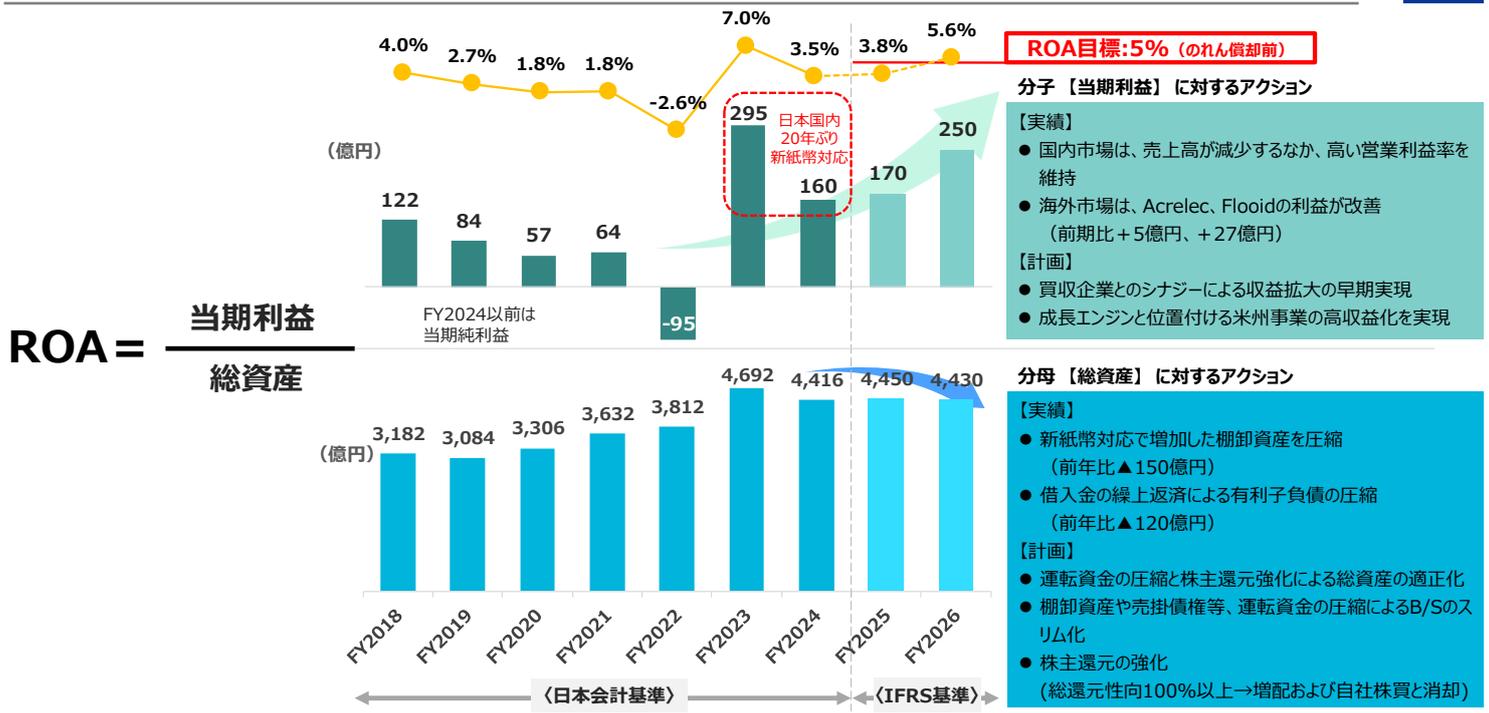
「ROIC 達成のためのアクション」 事業ポートフォリオの最適化

- ROIC目標達成に向けて、事業ポートフォリオの最適化を推進
- 現在の事業を、資本収益性と事業将来性により図のような形で配置
- 低収益あるいは赤字といった特に新事業系の改善が課題
- 改善しきれない事業については事業撤退も踏まえ作業を進めている

5. ROA 達成のためのアクション

当社試算に基づく参考情報

GLORY



目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

20

「ROA 達成のためのアクション」

ROAについても、分子・分母に分類しそれぞれのアクションを明示

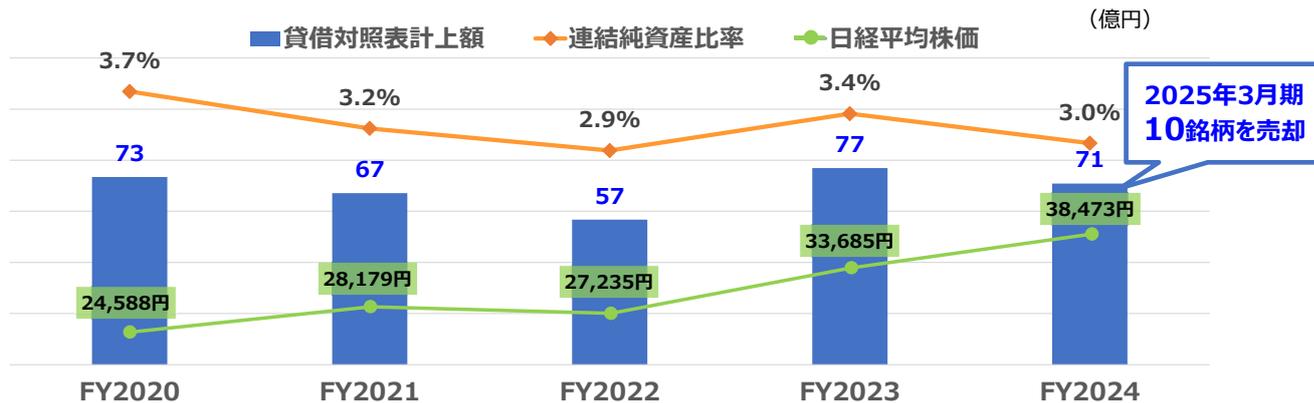
6. 政策保有株式の縮減状況

政策保有株式縮減に向けて

投資先企業の事業戦略や取引状況等を総合的に勘案し、当該企業との関係性の維持・強化が当社グループの企業価値の向上に資すると認める場合にのみ、保有する方針

過去4年間で日経平均株価が150%以上上昇する中、当社グループにおいては政策保有株式の売却を進め、2025年3月末時点における政策保有株式の連結純資産に対する割合は**3.0%**

政策保有株式の縮減状況



目標達成に向けて

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

21

「政策保有株式の縮減状況」

政策保有株式の削減を進めている

(緑色の折れ線グラフ) 日経平均株価

2024年度と2020年度を比較すると1.5倍くらい日経平均株価が上がっているが、そうした中でも政策保有株式を減らしている

(青い棒グラフ) 貸借対照表計上額

政策保有株式の縮減に努め、2025年3月期には10銘柄を売却

7. 株式を活用した人的資本経営の推進

取締役から従業員まで、株式によるインセンティブを付与し、エンゲージメントを高めることにより、企業価値向上を実現

目的	中長期的な業績向上・企業価値増大への貢献意欲の向上
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 株主の皆さまとの価値を共有 報酬制度全体として業績連動性を高める 優秀人材を登用できる競争力ある給与水準へ移行

人的資本経営のさらなる推進で
より競争力のある企業へ

取組み内容	対象者	実施時期
1. 役員報酬における業績連動型報酬割合の引き上げ（報酬に占める割合を20%から30%へ）	監査等委員でない 社内取締役	2024年6月 (2024年度業績に対する業績報酬より反映)
2. 従業員向け株式インセンティブ制度の範囲拡大（部長職以上から課長職以上へ対象拡大）	本社従業員（管理職） 国内子会社社長	2024年8月 (2024年度業績に対する業績報酬より反映)
3. 従業員持株会奨励金	全従業員	「10%」を導入済み

「株式を活用した人的資本経営の推進」

取締役から従業員まで株式によるインセンティブを付与し、エンゲージメントを高めることにより企業価値向上を目指す

株主様と同じ目線で事業を社員全員でやっていくという取り組みを実施している

8. 株主・投資家の皆様とのエンゲージメント強化

株主・投資家との対話状況（2025年3月期）

活動内容	実績	対応者
決算説明会	4回	代表取締役社長、経営戦略本部長
証券会社主催 カンファレンス	2回	代表取締役社長、経営戦略本部長
機関投資家向けIRイベント	1回	代表取締役社長、経営戦略本部長、海外/国内カンパニー長
個別取材対応/SR対話	延べ175名	代表取締役社長、経営戦略本部長、IR担当部門

対話の主なテーマ

テーマ	主な内容
事業概要	当社の特徴・強み、シェア、市場環境
決算の状況	営業利益の増減要因、海外売上高の状況、新紙幣関連需要
事業戦略	海外事業の展望、キャッシュレス対応（新領域事業含む）
経営方針	26中計（PBR1倍：資本政策、財務戦略、株主還元）

対話を踏まえて取り入れた事項

要望事項	当社対応	内容	
資本収益性	資本コストを意識した資本収益性の改善	株主還元の充実 利益配分に関する基本方針を変更 「総還元性向100%以上（2026年3月期-2027年3月期）」を追加	
IR強化	情報開示の充実	決算説明資料	投資家の関心の高い情報をトピックスとして開示
		英文開示の拡充	決算短信、決算説明資料、統合報告書の和英同時開示
	投資家の認知度向上	統合報告書の充実	投資家の意見等を反映し、さらに拡充
		スポンサード・リサーチのレポート導入	Quick/Nomuraコーポレートリサーチのレポートを導入

目標達成に向けて

連結業績の概要

2025年3月期 業績予想

参考資料

23

「株主・投資家の皆様とのエンゲージメント強化」

昨年4月の社長就任後、株主の皆様、投資家の皆様、アナリストの皆様と対話を実施させていただき
様々なご意見を拝聴

特に今回の株主還元については、利益配分に関する基本方針に総還元性向100%以上を追加をし
皆様の声を反映

9. 国際会計基準（IFRS会計基準）の任意適用

2026年3月期の連結財務諸表及び連結計算書類より、従来の日本基準に替えて国際財務報告基準（以下、IFRS会計基準）を任意適用することを決定しました。

1. IFRS会計基準 任意適用の目的

財務情報の国際的な比較可能性の向上により、ステークホルダーへの皆様へ有用性の高い情報を提供すること

2. 開示スケジュール

開示時期	開示書類	会計基準
2026年5月（予定）	2026年3月期 決算短信	IFRS会計基準
2026年6月（予定）	2026年3月期有価証券報告書	IFRS会計基準

「国際会計基準（IFRS会計基準）の任意適用」

海外売上比率が60%超え、今後さらに伸びていくという事業環境にあり、競合先企業には海外企業が多い

投資家の皆様から見ていただいても、その競合先とApple to Appleで比較できるような会計基準が適当と判断し、国際会計基準の任意適用を決定

課題：米国の通商政策に関する影響

関税措置について米国政府の施策が日々変動しているため、正確な影響額を予測することが困難な状況にあります。

当社グループの基本姿勢

「関税措置によるコスト増加分を販売価格に反映すること」を基本的なスタンスとしています。ただし、この価格転嫁が製品サービスの需要予測に与える影響については、現時点では把握できておりません。

業績予想

影響については現在精査中であり、2026年3月期の業績予想数値には当該影響を織り込んでおりません。当該影響の詳細が判明し、開示すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

「米国の通商政策に関する影響」

関税措置については、米国政府の施策が日々変動している状況にあり、正確な影響額を予測することが非常に困難

当社グループの基本姿勢としては、関税措置によるコスト増加分は販売価格への反映が基本スタンス
アメリカのお客様からはいつからいくら上がるのかという反応が来ているところ

この価格転嫁に対する製品販売やサービスの需要予測への影響については、現時点では把握できておらず、業績予想、影響については現在精査中。2026年3月期の業績予想数値には当該影響を織り込んでいない

当該影響の詳細が判明し開示すべき事項が生じた場合には速やかに公表

2025年3月期 通期

連結業績の概要

「2025年3月期 通期決算概要」

説明者：経営戦略本部長 田中 千也

連結業績概要 前期比

売上高

海外リテール市場向けソリューション等の販売は増加したが、国内の新紙幣関連需要の収束により減収

利益

金融市場において前期に発生した、利益率が高い新紙幣対応に伴う改造作業が減少し、営業減益利払いや為替差損等が発生し経常利益・純利益も減少

億円	通 期				前期比	期初予想進捗率 年 間
	2024年3月期	売上高 比率	2025年3月期	売上高 比率		
売上高	3,724	100.0%	3,690	100.0%	-34 -0.9%	111.8%
保守売上高	1,406	37.8%	1,326	35.9%	-80 -5.7%	130.0%
営業利益	511	13.7%	351	9.5%	-160 -31.3%	159.5%
経常利益	482	12.9%	284	7.7%	-198 -41.1%	149.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	295	7.9%	160	4.3%	-135 -45.8%	160.0%
※ EBITDA	722	19.4%	592	16.0%	-130 -18.0%	135.2%
為替 レート	ドル	145 円	153 円			
	ユーロ	157 円	164 円			

※EBITDA=営業損益+減価償却費+のれん償却費

「2025年3月期 連結業績概要」

2025年3月期 通期の業績は、売上高は前期並み。利益は減益

- ・売上高は、3,690億円（前期比－34億円）
- ・営業利益は、351億円（前期比－160億円）
- ・経常利益は、284億円（前期比－198億円）
- ・親会社株主に帰属する当期純利益は、160億円（前期比-135億円）

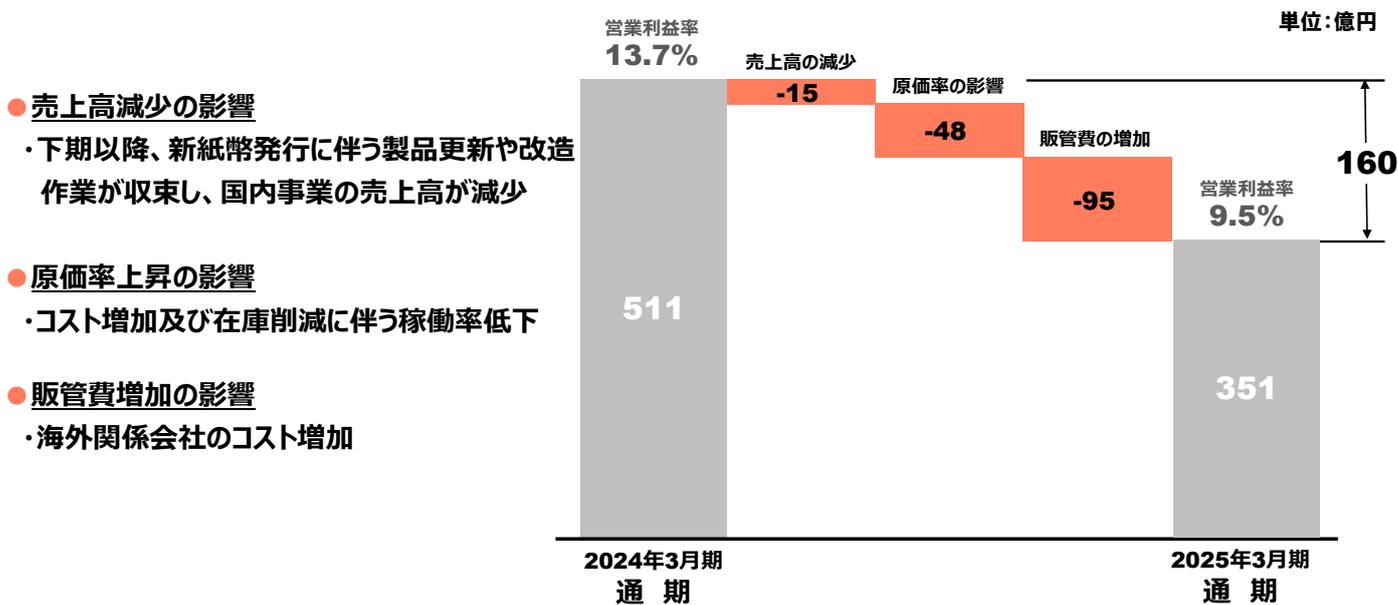
（売上高）

国内では中間期までに新紙幣発行に伴う製品の更新や改造作業が拡大。また、海外ではリテール市場向けソリューションの販売増加等もあり、前期並みで着地

（営業利益）

営業利益は、金融市場において、新紙幣発行に伴う製品更新や改造作業が前期の反動を受け減益
また、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、利払いや為替差損の発生等により減益

営業利益 増減要因



「営業利益の増減要因」

(減益要因)

・売上高の減少の影響 **15億円**

・原価率上昇の影響 **48億円**

・販管費の増加 **95億円**

販管費増加の主な要因：人件費の増加に加え、円安影響により海外のコストが増加

・営業利益 **351億円** (前年同期比 -160億円)

2025年3月期 通期 実績 セグメント別売上高・営業利益

億円	売上高				営業利益			
	通期		前期比	期初予想進捗率 年間	通期		前期比	期初予想進捗率 年間
	2024年3月期	2025年3月期			2024年3月期	2025年3月期		
海外市場	1,852	2,100	+248 +13.4 %	109%	64	84	+20 +31.3 %	93%
金融市場	784	544	-240 -30.6 %	109%	241	86	-155 -64.3 %	172%
流通・交通 市場	747	697	-50 -6.7 %	124%	105	98	-7 -6.7 %	392%
遊技市場	282	277	-5 -1.8 %	111%	100	85	-15 -15.0 %	131%
その他	58	70	+12 +20.7 %	100%	-1	-2	-1 - %	-
合計	3,724	3,690	-34 -0.9 %	112%	511	351	-160 -31.3 %	160%

- 海外** 欧米のリテール市場の好調を背景に増収。米州での収益も改善
- 国内** 新紙幣関連需要の収束等により、減収減益
- のれん償却** 通期
のれん償却額86億円 → 【のれん償却前営業利益】海外市場：170億円 連結合計：437億円

「セグメント別の売上高・営業利益」

(海外市場)

金融市場及びリテール市場ともに、人件費高騰や人手不足対応に伴うセルフ化ニーズが継続しており、製品・サービスの需要は順調

営業利益は、中間期以降、米州における人件費や外部委託手数料などの一時的なコスト増加に対する改善が進み増益

(国内市場)

金融市場では、新紙幣対応が前年度に集中していたこともあり、売上高、営業利益ともに減少

流通・交通市場、遊技市場では、今年度に新紙幣対応の影響が大きく発生したため、

売上高、営業利益ともにほぼ前期並み

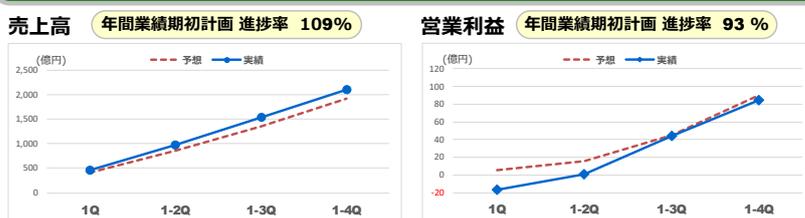
億円	通 期		前年同期比
	2024年3月期	2025年3月期	
売上高	1,852	2,100	+248 +13.4 %
売上高 構成比率	50%	57%	+7 pt
営業利益	64	84	+20 +31.3 %
営業利益率	3.5 %	4.0 %	+0.5 pt



業績のポイント

- ・実績 各地域における需要拡大を受けて、増収
- 【売上高】 ・要因 米国での大口受注、フルイド社の業績も寄与
- ・対策 引き続き、大口商談を中心に販売拡大を目指す
- ・実績 各地域での販売好調を受け、増益
- 【営業利益】 ・要因 米国でのコスト改善が大きく寄与
- ・対策 引き続き、注力市場にて販売拡大を図る

計画に対する進捗



ダイジェスト

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

30

「海外市場」

・売上高 **2,100億円** (前期比+248億円)

・営業利益 **84億円** (前期比+20億円)

(売上高)

リテール市場のバックオフィス向け「CI シリーズ」の販売は、セルフ化ニーズが継続し好調

GLRを中心とする金融市場向け「TCR」については、商談の延伸により低調

また、保守売上の増加や円安に加え、アクレック社の売上増加、フルイド社の連結会計の組入れ等により増収

(営業利益)

米州リテール事業において、保守の内製化が進展したため利益の改善が進み、ほぼ計画通り着地

地域別売上高 全体

億円	通 期		前 期 比			期初予想進捗率
	2024年3月期	2025年3月期			米ドルベース	年 間
米州	894	1,008	+114	+12.8%	+6.9%	106%
内 GGS	835	875	+40	+4.8%	-0.6%	105%
内 Acrelec	49	63	+14	+28.6%	+21.6%	113%
内 Flooid	10	70	+60	+600.0%	+558.2%	123%
欧州	794	900	+106	+13.4%	+7.3%	111%
内 GGS	414	451	+37	+8.9%	+3.6%	114%
内 Sitrade	138	166	+28	+20.3%	+14.0%	106%
内 Acrelec	233	231	-2	-0.9%	-6.1%	113%
内 Flooid	9	50	+41	+455.6%	+410.6%	94%
アジア	163	191	+28	+17.2%	+11.2%	119%
内 GGS	147	154	+7	+4.8%	-0.6%	110%
内 Acrelec	16	37	+21	+131.3%	+119.2%	185%
合計	1,852	2,100	+248	+13.4%	+7.5%	109%
内 GGS	1,396	1,481	+85	+6.1%	+0.6%	108%
内 Sitrade	138	166	+28	+20.3%	+14.0%	106%
内 Acrelec	299	332	+33	+11.0%	+5.2%	118%
内 Flooid	19	121	+102	+536.8%	+487.3%	110%

「海外地域別、会社別売上高」

各地域、各社ともに、円ベースにおいて、前期を上回る結果

為替影響を除いた米ドルベースで見た場合においても全ての地域で前期を上回る

次のページ以降で地域別の詳細を説明

地域別売上高 米州

億円	通 期		前年同期比	米ドルベース	期初予想進捗率 年 間
	2024年3月期	2025年3月期			
米州	894	1,008	+114 +12.8 %	+6.9%	106%
内 GGS	835	875	+40 +4.8 %	-0.6%	105%
内 Acrelec	49	63	+14 +28.6 %	+21.6%	113%
内 Flooid	10	70	+60 +600.0 %	+558.2%	123%

市場動向・TOPICS
<ul style="list-style-type: none"> • GGS Inc.と旧Revolution社との事業統合活動を推進 • 旧Revolution社の顧客である大手リテラーとの大口商談が順調に進捗



ダイジェスト

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

32

「海外 地域別売上高：米州」

(トピックス)

GGs Inc.と旧Revolution社との事業統合を推進しており、シナジーの一つとして旧Revolution社顧客である大手リテラーとの大口商談によるRevolution製品から当社製品への置き換えが順調に進捗

(製品/製品以外売上高)

リテール市場のバックオフィス向け「CIシリーズ」や、飲食市場向けドライブスルーソリューションの販売が好調

保守売上高も、全市場で増加

(市場別売上高)

飲食市場はアクレック社のドライブスルーやセルフサービスキオスクの販売が堅調

金融市場向け製品の販売は低調

リテール市場ではバックオフィス向け製品が好調

保守売上高の増加やフルイド社の連結会計組入れ等により増収

地域別売上高 欧州

億円	通期		前年同期比	米ドルベース	期初予想進捗率 年間
	2024年3月期	2025年3月期			
欧州	794	900	+106 +13.4 %	+7.3%	111%
内 GGS	414	453	+39 +9.4 %	+3.6%	114%
内 Sitrade	138	166	+28 +20.3 %	+14.0%	106%
内 Acrelec	233	231	-2 -0.9 %	-6.1%	113%
内 Flooid	9	50	+41 +455.6 %	+410.6%	94%

- ### 市場動向・TOPICS
- イタリアで金融機関向け大口案件を獲得
 - ドイツ、イギリスでリテール向け製品の販売が好調
 - スペイン、イギリス、スイスで金融市場向け製品の販売が好調



「海外 地域別売上高：欧州」

(製品/製品以外売上高、市場別売上高)

全ての市場において、販売が順調に推移。

製品以外でも、保守売上やフルイド社のソフトウェア売上により増収

地域別売上高 アジア

億円	通期		前年同期比	米ドルベース	期初予想進捗率 年間
	2024年3月期	2025年3月期			
アジア	163	191	+28 +17.2%	+11.2%	119%
内 GGS	147	154	+7 +4.8%	-0.6%	110%
内 Acrelec	16	37	+21 +131.3%	+119.2%	185%

※Acrelec社の日本国内での売上を含む

市場動向・TOPICS

- 日本を中心にセルフサービスキオスクの販売が好調



「海外 地域別売上高：アジア」

(製品/製品以外売上高)

飲食市場を中心に販売が増加し、製品以外でも各市場の保守売上高が増加

(市場別売上高)

飲食市場でアクレック社のキオスクの販売が増加したほか、金融市場では紙幣整理機、リテール市場向けでは「CIシリーズ」の販売が順調

アクレック社およびフルイド社の実績



億円	通期		前期比	期初予想進捗率 年間
	2024年3月期	2025年3月期		
売上高	299	332	+33	118%
米州	49 16%	63 19%	+14	113%
欧州	233 78%	231 70%	-2	113%
アジア	16 5%	37 11%	+21	185%
営業利益	10	15	+5	
のれん償却前				
のれん償却後	3	7	+4	

米州

大手QSRへセルフサービスキオスクやドライブスルーの販売が順調

欧州

保守売上が堅調に推移も主要国フランスで低調

アジア

日本でのセルフサービスキオスクの販売が好調



億円	通期		前期比	期初予想進捗率 年間
	2024年3月期	2025年3月期		
売上高	19	121	+102	110%
米州	10 53%	70 58%	+60	123%
欧州	9 47%	50 41%	+41	94%
営業利益	0	27	+27	
のれん償却前				
のれん償却後	-5	14	+19	

米州

欧州

新規顧客との契約及び既存顧客との契約更新は順調に進捗
SaaS契約を中心に堅調な販売実績

「アクレック社、フルイド社の業績」

(アクレック社)

・売上高 **332億円** (前期比 +33億円)

米州：米国でドライブスルーソリューションの販売が拡大しているほか、大手F&B（フード アンド ビバレッジ）向けの大口商談も活発化

欧州：前期のドイツ、イギリスのファストフードチェーン等への販売が一巡したほか、景況による投資抑制の影響を受け、販売は減少

アジア：日本、フィリピン、タイ等の大手ファストフードチェーン向けにセルフサービスキオスクの販売が進む

(フルイド社)

・売上高 **121億円** (前期比 +102億円)

欧米で新規商談が順調に進んでおり、注力市場である北米と英国を中心に、SaaSの導入を推進するとともに利益率向上にも取り組む

億円	通期		前年同期比
	2024年3月期	2025年3月期	
売上高	784	544	-240 -30.6 %
売上高構成比率	21%	15%	-6 pt
営業利益	241	86	-155 -64.3 %
営業利益率	30.7 %	15.8 %	-14.9 pt

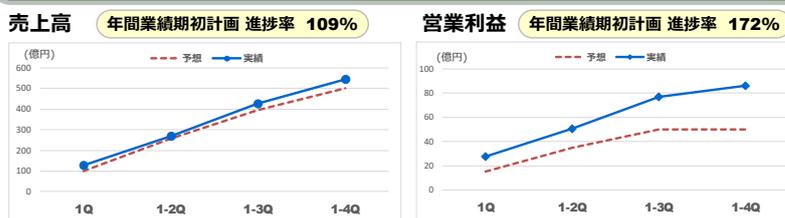
製品以外 (紫) / 製品 (緑) / 営業利益 (青)

期間	製品以外	製品	営業利益
2024年3月期 4Q	154	73	51
2025年3月期 1Q	84	43	28
2025年3月期 2Q	109	31	22
2025年3月期 3Q	117	37	26
2025年3月期 4Q	80	38	9

業績のポイント

- ・実績 新紙幣発行の反動減により販売は減少も、高水準を維持
- 【売上高】
- ・要因 大口案件により、主要製品の販売が増加
- ・対策 セルフ化ソリューション、周辺機器の販売拡大
- ・実績 新紙幣関連の売上高減少により減益
- 【営業利益】
- ・要因 新紙幣関連の製品更新・保守売上高の減少
- ・対策 セルフ化ソリューションの販売拡大

計画に対する進捗



「金融市場」

・売上高 544億円 (前期比 - 240億円)

・営業利益 86億円 (前期比 - 155億円)

(売上高)

新紙幣の発行に伴う販売増加の反動により、主要製品である「オープン出納システム」の売上は、郵政・JA向けの大型案件が寄与しましたが前期比マイナス41.6%、「窓口用紙幣硬貨入出金機」は前期比マイナス20.8%となり、保守売上も減少

(営業利益)

新紙幣発行に伴う改造作業が一巡し保守売上高が減少した事により、大幅な減益

流通・交通市場

GLORY

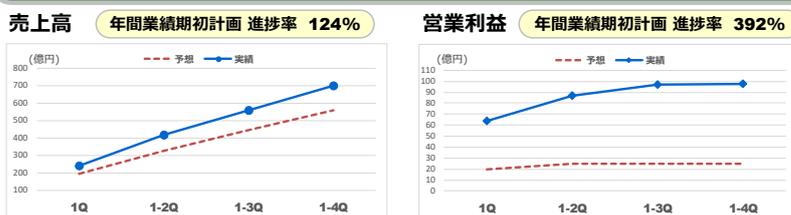
億円	通期		前年同期比
	2024年3月期	2025年3月期	
売上高	747	697	-50 -6.7%
売上高 構成比率	20%	19%	-1 pt
営業利益	105	98	-7 -6.7%
営業利益率	14.1%	14.1%	+0.0 pt

四半期	製品以外	製品	営業利益
2024年3月期 (4Q)	49	178	34
2025年1月期 (1Q)	58	181	64
2025年2月期 (2Q)	53	122	22
2025年3月期 (3Q)	42	98	10
2025年4月期 (4Q)	39	101	0

業績のポイント

- ・実績 新紙幣関連需要の収束により減収
- 【売上高】 ・要因 下期より新紙幣関連の更新・改造需要が収束
- ・対策 セルフ化ソリューションの販売拡大
- ・実績 新紙幣関連売上高減少により減益
- 【営業利益】 ・要因 下期より利益率の高い新紙幣関連、及び主要製品の販売が減少
- ・対策 セルフ化ニーズに対応した主要製品・ソリューションの販売拡大

計画に対する進捗



ダイジェスト

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

37

「流通・交通市場」

・売上高 697億円 (前期比 -50億円)

・営業利益 98億円 (前期比 -7億円)

(売上高)

主要製品である「レジつり銭機」の売上は、新紙幣対応に伴う需要の収束により前期比マイナス19.6%と減少したが高水準を維持

少し遅れて新紙幣対応需要が発生した「券売機」は前期比がプラス52.3%は好調
新紙幣発行に伴う改造作業により保守売上高は前期並み

(営業利益)

製品売上の減少等により減益

遊技市場

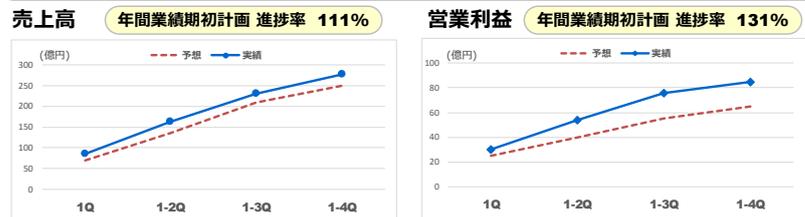
億円	通期		前年同期比
	2024年3月期	2025年3月期	
売上高	282	277	-5 -1.8 %
売上高 構成比率	8%	8%	0 pt
営業利益	100	85	-15 -15.0 %
営業利益率	35.5 %	30.7 %	-4.8 pt



業績のポイント

- ・実績 新紙幣関連需要や周辺機器の販売増により前期並み
- 【売上高】 ・要因 上期に新紙幣関連需要が拡大したが、下期は収束に向かう
- ・対策 スマート遊技機関連の需要注視
- ・実績 主要製品・保守売上高の減少により減益
- 【営業利益】 ・要因 下期から利益率の高い製品・保守売上高が減少
- ・対策 スマート遊技機関連製品の利益率の維持向上を図る

計画に対する進捗



「遊技市場」

- ・売上高 277億円 (前期比 -5億円)
- ・営業利益 85億円 (前期比 -15億円)

(売上高)

主要製品である「カードシステム」は、スマート遊技機の導入が本格化した前期と比較すると減少したものの高水準を維持

周辺機器である「両替機」の販売は好調でしたが、新紙幣対応に伴う保守売上高は減少

(営業利益)

主要製品、および保守売上高の減少により減益

2026年3月期 通期

通期業績予想

「2026年3月期 連結業績の予想」

説明者：経営戦略本部長 田中 千也

海外市場	米州	大手リテーラーの設備投資意欲が高く需要は堅調に推移、アメリカの関税の影響は精査中
	欧州	大手リテーラーでバックオフィス向け製品への更新需要が継続
	アジア	金融機関の設備投資はやや低調
金融市場		投資意欲はあるものの、新紙幣対応の完了により需要は一時的に減少 少人数店舗運営をサポートする製品・サービスへの需要は根強い
流通・交通市場		小売・飲食店での人手不足が顕著で、セルフ型製品への需要は堅調に推移
遊技市場		スマートスロット関連製品への需要は一巡したものの、スマートパチンコについては、 令和7年7月7日に導入が予定されている新認可基準「LT3.0プラス」による需要変動を注視

「当社を取り巻く事業環境」

（海外市場）

大手リテーラーの設備投資意欲が高く需要は堅調に推移すると見込む

（国内市場）

金融市場では、金融機関の投資意欲はあるものの、新紙幣対応が完了し現金処理を含む設備投資が一旦縮小するが、少人数店舗運営をサポートする製品・サービスに対する需要は根強い

流通・交通市場では、小売店・飲食店での人手不足に対応するためのセルフ化対応製品への需要は堅調な推移を見込む

遊技市場では、スマートスロット向けの需要は一巡したものの、スマートパチンコについては、7月より新たな認可基準が施行されることから、今後発売される新台の動向を注視

2026年3月期 通期 業績予想

売上高

欧米でリテール・飲食市場向けの販売が増加するが、国内事業は新紙幣発行対応(特需)等の反動により販売減少を予想

利益

海外事業の利益回復傾向は続くが、国内事業の新紙幣発行対応(特需)等の反動による売上高減少により営業減益を予想

億円	通期				前期比	IFRS (億円)	2026年3月期 予想
	2025年3月期	売上高 比率	2026年3月期 予想	売上高 比率			
売上高	3,690	100.0%	3,400	100.0%	-290 -7.9%	売上収益	3,400
保守売上高	1,326	35.9%	1,240	36.5%	-86 -6.5%	営業利益	285
営業利益	351	9.5%	215	6.3%	-136 -38.7%	親会社株主に帰属する 当期利益	170
経常利益	284	7.7%	195	5.7%	-89 -31.3%	基本的1株当たり 当期利益	304.71円
親会社株主に帰属する 当期純利益	160	4.3%	100	2.9%	-60 -37.5%		
※ EBITDA	592	44.6%	453	36.5%	-139 -23.5%		
為替 レート	ドル	153 円	145 円				
	ユーロ	164 円	160 円				

※EBITDA=営業損益+減価償却費+のれん償却費

ダイジェスト

連結業績の概要

2026年3月期 業績予想

参考資料

41

「2026年3月期 通期業績予想」

海外市場の成長、及び新紙幣発行に伴う需要の反動の影響などを踏まえ予想

・売上高は **3,400億円** (前期比-290億円)

・営業利益は **215億円** (前期比-136億円)

・経常利益は **195億円** (前期比-89億円)

・親会社株主に帰属する当期純利益は **100億円** (前期比-60億円)

IFRS に換算した予想は、売上収益3,400 億円、営業利益285 億円、親会社株主に帰属する当期利益170 億円

(海外市場)

リテール市場を中心に販売拡大を見込み増収増益を予想

営業利益は全体の7割以上を占める見通し。利益率も更に改善傾向

(国内市場)

新紙幣発行に伴い増加した需要の反動減などにより厳しい状況を見込む

(想定為替レート)

・ドルは145円

・ユーロは160円

2026年3月期 通期 業績予想 セグメント別売上高・営業利益

億円	売上高			営業利益			IFRS 2026年3月期予想 (億円)	
	通期		前期比	通期		前期比	売上高	営業利益
	2025年3月期	2026年3月期 予想		2025年3月期	2026年3月期 予想			
海外市場	2,100	2,160	+60 +2.9 %	84	160	+76 +90.5 %	2,160	240
金融市場	544	370	-174 -32.0 %	86	15	-71 -82.6 %	370	10
流通・交通市場	697	610	-87 -12.5 %	98	10	-88 -89.8 %	610	7
遊技市場	277	190	-87 -31.4 %	85	35	-50 -58.8 %	190	33
その他	70	70	0 0.0 %	-2	-5	-3 -	70	-5
合計	3,690	3,400	-290 -7.9 %	351	215	-136 -38.7 %	3,400	285

海外市場 リテール、飲食の各市場での大型案件の獲得などにより増収増益を見込む

金融市場 主要製品の更新需要は一巡し、減収減益を見込む

流通・交通市場 新紙幣発行に伴う製品・サービスの反動減により減収減益を見込む

遊技市場 スマート遊技機向けカードシステムの販売はスマートパチンコ向けに移行し、一時的な需要減少を見込む

「セグメント別業績予想」

(海外市場)

欧米リテール市場での大型案件の獲得などにより増収増益を見込む

・売上高 **2,160億円** (前期比+60億円)

・営業利益 **160億円** (前期比+76億円) のれん償却前営業利益は約250億円を予想

(金融市場)

・売上高 **370億円** (前期比-174億円)

・営業利益 **15億円** (前期比-71億円)

(流通・交通市場)

改刷特需の反動減の影響はあるが、セルフ型製品・サービスの需要継続を見込む

・売上高 **610億円** (前期比-87億円)

・営業利益 **10億円** (前期比-88億円)

(遊技市場)

スマート遊技機向けカードユニットの需要に変動が見込む

・売上高 **190億円** (前期比-87億円)

・営業利益 **35億円** (前期比-50億円)

2026年3月期 通期 業績予想 海外地域別売上高



億円	通期		前年同期比	
	2025年3月期	2026年3月期予想		米ドルベース
売上高	332	360	+28	
米州	63	70	+7	
欧州	231	250	+19	
アジア	37	40	+3	
営業利益	15	25	+10	
	7	17	+1	



億円	通期		前年同期比	
	2025年3月期	2026年3月期予想		
売上高	121	130	+9	
米州	70	75	+5	
欧州	50	55	+5	
営業利益	27	19	-8	
	14	6	-8	

※2024年3月期 第4四半期よりFlood社を連結決算に組入れ

億円	通期		前年同期比		米ドルベース
	2025年3月期	2026年3月期予想			
米州	1,008	1,060	+52	+5.2%	+10.6%
内 GGS	875	915	+40	+4.6%	+10.1%
内 Acrelec	63	70	+7	+11.1%	+16.5%
内 Flood	70	75	+5	+7.1%	+11.8%
欧州	900	930	+30	+3.3%	+8.7%
内 GGS	451	455	+4	+0.9%	+5.9%
内 Sitrade	166	170	+4	+2.4%	+7.7%
内 Acrelec	231	250	+19	+8.2%	+13.6%
内 Flood	50	55	+5	+10.0%	+14.4%
アジア	191	170	-21	-11.0%	-6.6%
内 GGS	154	130	-24	-15.6%	-11.3%
内 Acrelec	37	40	+3	+8.1%	+12.7%
合計	2,100	2,160	+60	+2.9%	+8.2%
内 GGS	1,481	1,500	+19	+1.3%	+6.6%
内 Sitrade	166	170	+4	+2.4%	+7.7%
内 Acrelec	332	360	+28	+8.4%	+14.1%
内 Flood	121	130	+9	+7.4%	+12.9%

「海外の地域別売上高予想」

欧米におけるリテール市場の販売拡大を見込む

・米州 1,060億円 (前期比+52億円)

・欧州 930億円 (前期比+30億円)

アジアは金融市場の販売が厳しいことを見込む

・アジア 170億円 (前期比-21億円)

(アクレック社)

欧州で大口案件の獲得を見込む

・売上高 360億円 (前期比+28億円)

(フルイド社)

・売上高 130億円 (前期比+9億円)

米州75億円、欧州55億円

参考資料

2025年3月期 通期 損益計算書・包括利益計算書

(億円)	通 期				増減
	2024年3月期	売上高比率	2025年3月期	売上高比率	
売上高	3,724	100.0%	3,690	100.0%	-34
売上原価	2,098	56.3%	2,128	57.7%	+30
販売費及び一般管理費	1,114	29.9%	1,210	32.8%	+96
営業利益	511	13.7%	351	9.5%	-160
営業外収益	14	0.4%	36	1.0%	+22
営業外費用	42	1.1%	103	2.8%	+61
経常利益	482	-	284	7.7%	-198
特別利益	2	0.1%	7	0.2%	+5
特別損失	18	0.5%	12	0.3%	-6
税金等調整前当期純利益	466	-	278	7.5%	-188
法人税等	164	4.4%	114	3.1%	-50
当期純利益	301	8.1%	164	4.4%	-137
親会社株主に帰属する 当期純利益	295	-	160	4.3%	-135
当期純利益	301	-	164	4.4%	-137
其他有価証券評価差額金	13	-	-2	-	-15
為替換算調整勘定	148	-	-14	-	-162
退職給付に係る調整額	55	-	3	-	-52
その他の包括利益合計	217	5.8%	-13	-0.4%	-230
包括利益	519	13.9%	151	4.1%	-368

2025年3月期 通期 貸借対照表

(億円)				(億円)			
	2024年3月末	2025年3月末	増減		2024年3月末	2025年3月末	増減
現預金・有価証券	352	515	+163	買掛債務	275	193	-82
売掛債権	900	685	-215	短期借入金	439	197	-242
棚卸し資産	1,110	956	-154	その他	895	725	-170
その他	71	88	+17	流動負債合計	1,610	1,116	-494
流動資産合計	2,434	2,246	-188	長期借入金	370	353	-17
有形固定資産	461	460	-1	その他	424	585	+161
顧客関係資産	368	328	-40	固定負債合計	794	938	+144
のれん	715	660	-55	負債合計	2,405	2,055	-350
その他	142	132	-10	資本金	128	128	0
無形固定資産	1,225	1,121	-104	利益剰余金	1,670	1,752	+82
投資その他の資産	570	587	+17	その他	488	480	-8
固定資産合計	2,257	2,170	-87	純資産合計	2,286	2,360	+74
資産合計	4,692	4,416	-276	負債純資産合計	4,692	4,416	-276

2025年3月期 通期 キャッシュ・フロー計算書

(億円)	通 期		増 減
	2024年3月期	2025年3月期	
営業活動によるキャッシュフロー	418	457	+39
投資活動によるキャッシュフロー	-335	-79	+256
財務活動によるキャッシュフロー	-139	-212	-73
現金及び現金同等物の期末残高	351	514	+163
フリーキャッシュフロー	82	378	+296

2025年3月期 通期 セグメント別売上高・営業利益（予想比）

億円	売上高			営業利益		
	通期		達成率	通期		達成率
	予想(3Q時修正)	実績		予想(3Q時修正)	実績	
海外市場	2,130	2,100	98.6%	90	84	93.3%
金融市場	535	544	101.7%	67	86	128.4%
流通・交通市場	685	697	101.8%	88	98	111.4%
遊技市場	280	277	98.9%	80	85	106.3%
その他	70	70	100.0%	-5	-2	-
合計	3,700	3,690	99.7%	320	351	109.7%

2025年3月期 通期 設備投資他



億円	通期		前期比	四半期毎の推移				
	2024年3月期	2025年3月期		FY23 (4Q)	FY24 (1Q)	FY24 (2Q)	FY24 (3Q)	FY24 (4Q)
設備投資額	132	119	-13 -9.8%	48	33	27	26	33
減価償却費	133	153	+20 +15.0%	35	35	34	44	40
研究開発費	195	199	+4 +2.1%	57	45	48	49	57

2026年3月期 通期業績予想 (半期)

億円	上半期		下半期		通期			
	2025年3月期	2026年3月期予想	2025年3月期	2026年3月期予想	2025年3月期	2026年3月期予想	前期比	
売上高	1,850	1,560	1,840	1,840	3,690	3,400	-290 -7.9%	
保守売上高	685	615	641	625	1,326	1,240	-86 -6.5%	
営業利益	191	58	160	157	351	215	-136 -38.7%	
経常利益	143	48	141	147	284	195	-89 -31.3%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	73	16	87	84	160	100	-60 -37.5%	
EBITDA	309	176	283	277	592	453	-139 -23.5%	
為替 レート	ドル	153 円	145 円	153 円	145 円	153 円	145 円	-8 円
	ユーロ	166 円	160 円	161 円	160 円	164 円	160 円	-4 円

2026年3月期 通期業績予想 (半期：セグメント別)

億円	上半期		下半期		通期		
	2025年3月期	2026年3月期予想	2025年3月期	2026年3月期予想	2025年3月期	2026年3月期予想	前期比
海外市場	968 1	1,000 40	1,132 83	1,160 120	2,100 84	2,160 160	+60 +76
金融市場	269 51	170 5	275 35	200 10	544 86	370 15	-174 -71
流通・交通市場	416 87	270 0	281 11	340 10	697 98	610 10	-87 -88
遊技市場	163 54	90 17	114 31	100 18	277 85	190 35	-87 -50
その他	33 -2	30 -4	37 0	40 -1	70 -2	70 -5	0 -3
合計	1,850 191	1,560 58	1,840 160	1,840 157	3,690 351	3,400 215	-290 -136

上段：売上高
下段：営業利益

2026年3月期 通期業績予想 (半期：海外地域別)

億円	上半期		下半期		通期		前期比
	2025年3月期	2026年3月期 予想	2025年3月期	2026年3月期 予想	2025年3月期	2026年3月期 予想	
米州	444	470	564	590	1,008	1,060	+52
内 GGS	394	400	480	515	874	915	+41
内 Acrelec	22	35	41	35	63	70	+7
内 Flooid	27	35	43	40	70	75	+5
欧州	434	450	466	480	900	930	+30
内 GGS	223	215	304	240	451	455	+4
内 Sitrade	77	90	89	80	166	170	+4
内 Acrelec	111	120	120	130	231	250	+19
内 Flooid	22	25	50	30	50	55	+5
アジア	88	80	103	90	191	170	-21
内 GGS	71	60	83	70	154	130	-24
内 Acrelec	17	20	20	20	37	40	+3
合計	968	1,000	1,132	1,160	2,100	2,160	+60
内 GGS	689	675	792	825	1,481	1,500	+19
内 Sitrade	77	90	89	80	166	170	+4
内 Acrelec	151	175	181	185	332	360	+28
内 Flooid	50	60	121	70	121	130	+9

2026年3月期 通期業績予想 (設備投資など)



億円	通期		前期比	半期毎の推移			
	2025年3月期	2026年3月期予想		FY24 1H	FY24 2H	FY25 1H (予)	FY25 2H (予)
設備投資額	119	110	-9 -7.6%	60	59	55	55
減価償却費	153	150	-3 -2.0%	69	84	75	75
研究開発費	199	190	-9 -4.5%	93	106	95	95
配当 (円)	108	112	+4 円	54	54	56	56

<注意事項>

1. 本資料に記載されている、業績見通し等の将来に関する情報は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。
2. 当資料の増減率、構成比は、千万円以下を切り捨てた数値を基に算出しており、決算短信の増減率とは異なる場合があります。